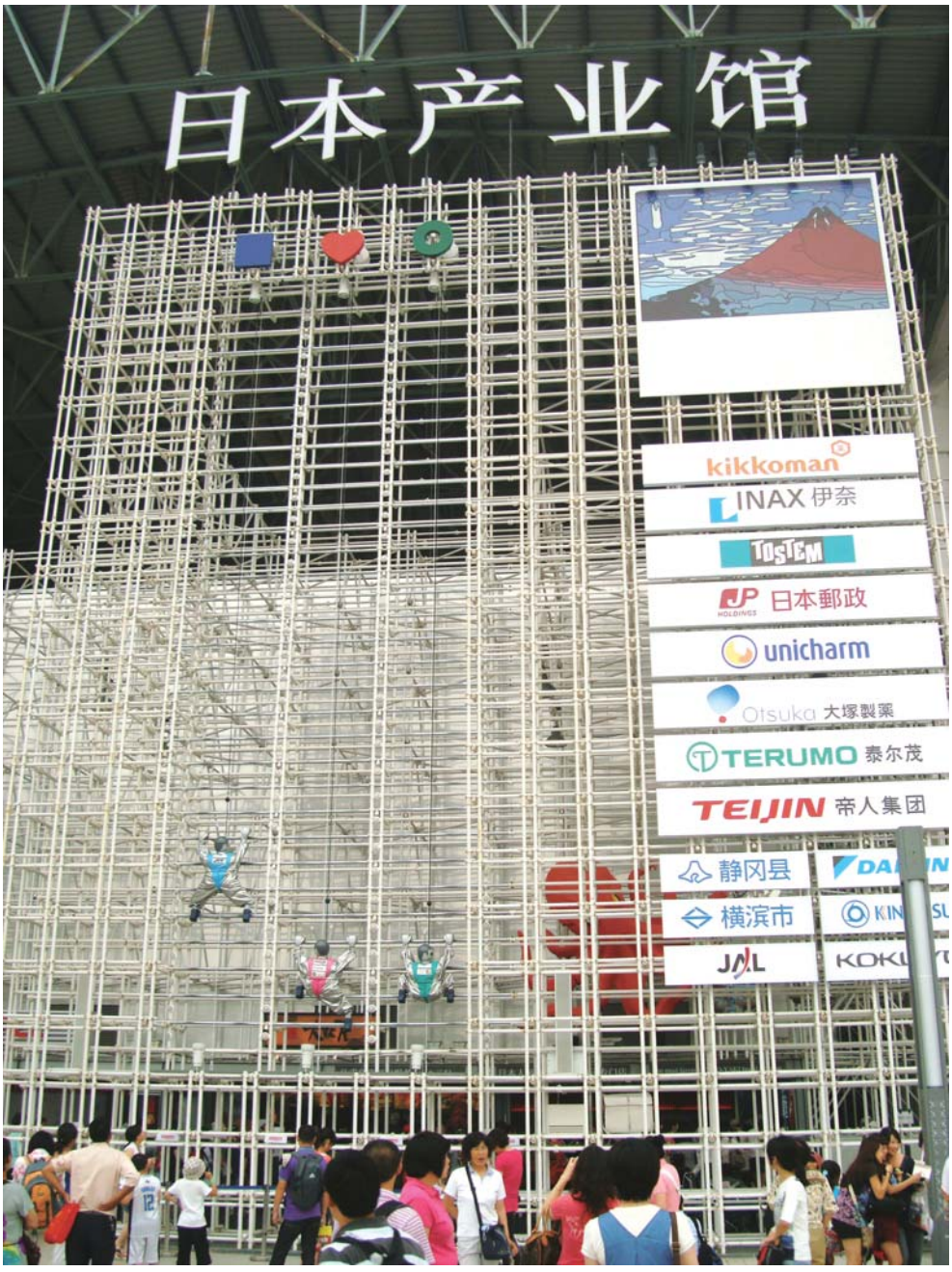
吹田市立博物館
SUITA CITY MUSEUM

すいはく 博物館だより

No.45

平成23年度(2011年度)　春季特別展

万博市民展　千里から上海へ



夢 ROBOがやってくる！

協力：マッスル株式会社
撮影：中牧弘允氏

平成23年度（2011年度）春季特別展

万博市民展　千里から上海へ

万国旗

70年大阪万博の基になかれる理念は「文明の祭典」だったと言う。19世紀の中ごろからヨーロッパでさかんになった万国博覧会は開催国が威信をかけて、経済力と文化を誇るという大事業であった。そこにアメリカ合衆国やオーストラリアが参入して世界的なイベントに育っていったのである。日本は、世界の仲間入りを目指して、江戸時代末から参加をはじめ、1940年には主催国として名乗りを上げていたが、戦争によって国際情勢が悪化したためあきらめた経緯がある。実現したのは30年後、敗戦から立ち直り、経済発展の途上にあった日本にとっては絶好のチャンスでありタイミングであった。その結果、数字としては人口の半数を超える6420万の入場者を集め、しかも万博としては初の黒字をだす大成功をおさめたのである。大阪万博によって、日本人は目指すべき文明社会の生活を見て自信をつけた、いや、日本人だけでなく東アジアの国々の人たちにモデルを示したことは韓国や上海の例を見れば明らかである。

万博によって開催地のインフラが飛躍的に向上する。ニュータウンとその周辺地で現代的居住区が整備され、通信・交通網がととのい、公園、博物館、遊びの広場、森などがつくられ、生活環境がゆたかになった。中央にそびえる太陽の塔が、いまや市民のプライドとなっていることもうなずけるのである。

しかし、それにも増して重要なのは国際交流、すなわち世界の人々との交わり方であろう。島国育ちの日本人にはゼノフォビア（外人恐怖症）である一方、平和な世界がいつかきっと来ると信じているらしいのも、あの渾然とした雰囲気に根ざしているのかもしれない。

具体的な例を挙げると、上海万博に吹田から山田権六踊り保存会と江坂着物学院が民間大使のような形で出かけていった。ところが、おりから、尖閣列島の問題がもちあがって世話役は大変心配したらしい。しかし「あれは国と国との問題、民間人には関係ない」という柔らかな雰囲気で安心して公演を果たし喝采をうけたという。山田の皆さんの自然な振る舞いがそうさせたのだと思う。国際交流とは政治ではなく、草の根的なものなのである。

今回の特別展のタイトルは「万博市民展千里から上海へ」と決まった。委員会での長く熱い議論の結果だった。市民展と言う言葉には、万博の開催地としての市民の矜持を示すとともに、わたしたちは世界市民であると連想させる。40年の時空を越えて、大阪万博の夢が上海までどう引継がれたのかが分かる展示になればと思っている、そしてそれが、今後どう生かされていくのかの道しるべになればと思っている。

（小山修三）

万博少年1970が見た上海万博2010

「千里を超える万博」を、40年間待っていた！11歳のとき超近所にやってきた大阪万博。浴びるように見に行った。千里育ちの僕の体の半分は万博、半分はニュータウンでできている。今回はやる気満々の中国、発展めくるめく上海である。目標観客数は大阪の記録を超える7000万人！しかも上海ではすごい勢いでニュータウン開発をやっているらしい…。

結局３回行ってしまった。６月と９月と10月。そこに吹いていたのは1970年千里丘陵と同じ風だった。不思議な形のパビリオン、開門と同時に走る人！よくわからない技術展示、広場で始まる民族音楽、すべるような電気自動車、長蛇の列、ファストフードのにおい、言葉がわからなくても教えてくれようとするボランティアやアテンダントや警備員…。

観客のマナーもそんなに悪いと思わなかった。列で露骨に抜かす人がいると、別の観客が大声でたしなめる。この元気さとアツイ雰囲気、40年前の大阪と同じじゃないか！

万博の合い間にニュータウンも見に行った。モダンで庶民的な公営団地、いかにも高そうな高層マンション群、イギリスやドイツの町並みをそっくり再現したびっくりニュータウン…さまざまな形の夢があった。

９月の上旬に尖閣諸島での「衝突」が起きた

中国国家館に入るため整列する人たち

郊外のニュータウン「浦江・世博家園」。
万博用地に住んでいた人たちの移転先として建設された「万博タウン」

あと僕は２回行ったわけだが、不愉快だったり危険な思いをすることはまったくなかった。誰もが最後まで万博を楽しんでいた。田舎から出てきたらしい団体客、慣れない手で外国料理をつついていた老夫婦、夕景色の中を散策していた若い家族…。

大阪万博の時だって、世界は決して平和だったわけではない。米ソは冷戦の真っ最中だったし、ベトナム戦争も続いていた。しかし緊張と裏腹でも、万博は人々の胸に何かを残す。とにかく7000万以上の中国の人民が、きちんと行列して未来都市を体験して「世界を見てしまった」のだ。ほんとうの「万博効果」は、万博が終わってから効いてくる。万博で「人生が変わった」人は、この吹田にもたくさんいるではないか。

この40年の間、人類のテーマは「無限の宇宙」から「有限の地球」に大きくシフトした。宇宙は基本的に無限の象徴だから、その展示には限りないロマンがあった。しかし地球は有限なのである。その課題に、今一番大きな規模で向き合っているのが中国ではないのだろうか。このたった40年間で、地球の人口はおよそ倍になった。経済発展、生活向上を求める気持ちと資源問題を、どうやって折り合いをつけるのか。だから2010年の万博会場がどこか天真爛漫になれなかったとしても、それは世界中がその課題を意識し始めているからにほかならない。

でも万博は、やっぱり楽しくて、素晴らしい。いっぱい思い出をチャージした上海、中国、世界の人たちが、これから難しい時代を元気に生きていけますように。もう一度、どこかの国で、会えるまで。万博と生きてきた51歳少年の僕は、待っている。　　（奥居　武）

権六おどり～時空を超えて～

大阪万博での権六踊り

①上海万博に出演

40年の時空を越えて上海公演をやったわけですが、まずはその感想から伺いましょう。

――すごくよかったです。6月12日のジャパンデイでした。広い野外ステージにあふれるような人、その前で手踊りと傘踊りをやりました。ライブで三味線を弾いて、歌を唄いました。太鼓があればもっとよかったのにと思いました。とにかく人が多くて、こちらは舞台用の浴衣で出かけた人がおり、いっぱい荷物をかかえていたので、入場に苦労しましたが、何とかやり遂げました。

大阪万博の頃は中国との国交はなかったのですが、今回いってみた印象は？

――近代化されていて、まったく不自由はしませんでした。自費参加のパック・ツアーなので、大いばりで蘇州まで観光に行ってきましたよ。短期間でしたが、古い中国文化も堪能しました。

大阪万博の頃のお話をしてください、写真を見ると皆さんお若かったですね。

――前年に権六踊りを踊ることが決まって、山田の婦人会を中心に会がつくられました。メンバーは150人くらいだったでしょうか、中心は年配と若手、つまり、お姑さんとお嫁さんの２つのグループ。私たちはちょうど子どもから手が離れて、一息ついたところ。踊りでも家事でも、お姑さんにはずいぶんたすけてもらいました。また、若手グループの連帯ができたとおもいます。とくに、当時まだ農村だった吹田に町から嫁に来た人たちは、なかなか溶け込めずに悩んでいた人もいたのですが、このイベントのおかげで、うまく入っていけたといっていました。

どんなスケジュールでやったのですか。

――まず踊りを習い、稽古に励みました。そして本番は２週間踊りに通いました。午前中に家の仕事を片付けて、毎日、うきうき、出かけていきました。遠くから来る親類を泊めるのを断ったことさえありました。入場カードを着けていたので、時間が空くと会場をあちこち見て歩きました、人気のある館には行けなかったけど。

吹田まつりでの権六踊り

②山田の近代化

そういう余裕の時間が持てたのは、生活環境がよくなったこともあるのでしょうね。

――千里ニュータウンができ万博が追いうちをかけて土地が売れ、地域の経済がうるおいましたからね。井戸から水道、薪からプロパンガス、茅葺から２階建の瓦葺へ建て替えたり、自家用車を持てるようになるなど、生活が便利になりました。あのころ景色がみるみる変わっていったことを思い出します。家事にあたる嫁としては、生活活動の範囲がせまくなったことがよかったと思います。畑をみまわったり、山で薪を拾う作業は大変でしたから。

今も皆さんは権六踊りに熱心ですね。その秘密は何でしょう

――この踊りは、万博をきっかけとしてはじまった吹田まつりには欠かせないものとなりました。吹田まつりは皆勤、確か今年で４２年、メインイベントの一つです。普通は円くとどまっている踊りを行進化するのに苦労しました。たくさんの人が参加しますよ。呼びかけによってその輪が広がっているのです。また、国際交流にも一役買っています。花博や大阪城博覧会のほか、姉妹都市であるオーストラリアのバンクスタウンに行ったのは楽しい思い出です。

今回のゲスト：内山さん・村上さん・岡本さん

実際にはどんな活動をしているのですか？

――保存会が1978年にでき、普及に努めています。より踊りやすく、洗練された踊りにしたいと思っています。子どもたちに教えるのは楽しいですね。山田にはいくつかの小学校がありますが、みんな熱心ですよ。お祭りには（景品にもよるけど）200人近くも集まったことがあります。こういう元気を掘り起こせばいいとおもっています。ただ今は元気だけど、やはりメンバーが高齢者ですから、若い後継者が育ってほしいですね。

権六踊りが地域の連帯や振興に役立っていることがよくわかりました。文化の力を感じます。これからも粘りづよく活動を続けてください。本日はどうもありがとうございました。

上海万博での傘踊り

大阪万博と吹田市民

当館は平成４年に開館して以来、市民から大阪万博など万博関連資料の寄贈を受けてきました。ガイドブック、パンフレット、会場マップ、記念切手など約４千点収集するに至りました。今回の展示は主要なものを選びましたが、その中から特に吹田市と吹田市民に関わりの深い資料を紹介します。

吹田市と市民の取り組み

山田の方のお話では、万博で生活ががらっと変わった、井戸から水道へと整備され、小学校が鉄筋化されたとのことでした。田畑が整地され、景観が変わるとともにインフラが整備され、人々の生活が急激に変化しました。市民は世界の人々を迎えるという意識を強くしました。

山田中一条池付近から万博会場を望む

昭和45年１月　野口昭雄氏撮影

万国博美化看板

ブリキ製で民家の納屋の壁に取り付けられていました。万博開催に向けて市民の意識向上が図られたのでしょう。

吹田市民のための EXPO'70ポケットガイド

昭和45年２月発行の吹田市民向け万博ガイドブック。巻頭に、吹田に世界の人々を迎え入れる気概が謳われています。

日本万国博入場券

当時の吹田市長から吹田市民に向けて配られた入場券。

伊丹市バス万国博乗車記念

当時の人々にとって、千里はまばゆい「夢の未来都市」でした。

グラフすいた　市制30周年記念

昭和45年３月発行。千里ニュータウンの造成と日本万国博覧会会場の設営によって変貌した吹田の市制の30年をふりかえっています。

交通網の整備

昭和39年に東海道新幹線が開通しました。吹田では、千里ニュータウンの造成に従い、阪急千里山線（現千里線）が、昭和38年に千里山から新千里山（現南千里）まで、昭和42年に南千里（昭和41年改称）から北千里まで延伸されました。さらに、大阪万博開催に間に合わせるため、大阪を中心とする交通網が整備されました。昭和45年、大阪市営地下鉄１号線の終点江坂から北に延伸する北大阪急行電鉄が敷設され、万国博期間中は万国博中央口までの仮設線路、阪急電車は現在の山田駅付近に万国博西口が設けられました。これらの路線は、万博終了後も多くの吹田市民に使われています。

上から／阪急電車日本万国博覧会記念乗車券、地下鉄堺筋線開通中央線全通記念乗車券、近鉄難波線開通記念乗車券、北大阪急行電鉄開通記念乗車券

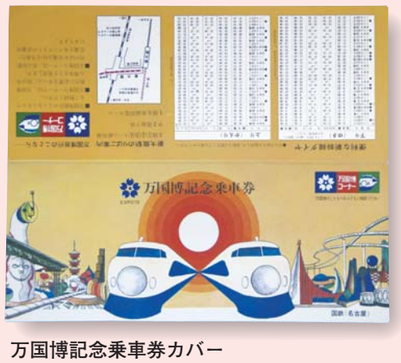
大阪を中心とする鉄道が整備され、大阪中心部から万博会場へとつなぐ北大阪急行電鉄が開通しました。

山田上地区から建設中の万博会場と高速道路を望む

昭和44年　野口昭雄氏撮影

万国博記念新幹線特急回数乗車券

浜松から万国博中央口。新幹線開業時から運行していたひかり0系は平成16年に運転営業を終了しました。



万国博記念乗車券カバー

国鉄名古屋駅発行。裏は万博会場図となっています。新幹線の開通によって、遠方からの来阪も容易となりました。

左／万博見学チラシ（日急バス）
下／日本万国博覧会記念乗車券（名古屋近鉄バス）
日本万国博覧会記念乗車券（奈良交通バス）

鉄道だけでなく、高速バスも運行しました。このころから長距離高速バスが広まりました。

（池田直子）

アメリカ館の大屋根から東京ドームへ

枚方工場で大屋根をたたむ

ふくらみはじめたアメリカ館大屋根

大阪万博では、各パビリオンのユニークさが新鮮でした。なかでも、アメリカ館大屋根や富士グループ館はテントのような大規模膜構造物ですが、大阪の大型テント企業が世界ではじめて手がけました。この大阪万博を契機にテントが単なる「日よけテント」のイメージを脱し、新しい構造物として世界に認められるようになりました。

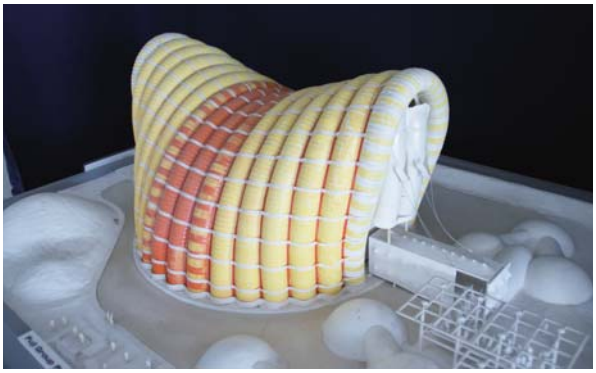
アメリカ館の大屋根は10,000m²もの一枚膜を内部から空気を送って浮かび上がらせたものです。ロープと膜の巧みな組み合わせにより１本の支柱もありません。キャンパスを透過した自然光線を取り入れることができます。それまでにも大型のテントは手がけていましたが、アメリカ館ほどの大規模な大屋根は初めての取り組みで、大型の模型を作って実験しました。枚方工場のなかで10,000m²もの一枚膜をたたむのに丸３日要し、まるで弁当箱の中で風呂敷をたたむようだったということです。たたむのも、現場での広げる作業も社員総出の手作業で行いました。アメリカ館の大規模膜屋根の原理は昭和62年に建築された東京ドームにも活かされています。

富士グループ館は直径４ｍ長さ78ｍの筒状のエアビームが16本アーチ状に立ち並び、各エアビームは４ｍ間隔で、横ベルトによって相互に連結されていました。作業はエアビームに一本一本空気を入れていき、つなぎ合わせました。縫い目から空気が漏れないよう、縫い目の上からコーティングしました。半年間にわたる会期であったため、常に多段式ターボブロアで空気を送り込み形状を維持したといいます。

同社は、大阪万博以後の各地で開かれた博覧会のパビリオンの建築も手がけてきました。昨年開催された上海万博では、世博軸、日本館、中国航空館などの建築を手がけていますが、膜構造物ならではの奇抜で斬新なデザインとやさしい風合いが魅力的です。今回の展示ではアメリカ館と富士グループ館の復元模型や膜素材を展示し、パビリオンの建築過程を映像で紹介する予定です。

（池田直子）

エアビームの設置



富士グループ館復元模型

写真協力：太陽工業株式会社

万博公園の森は今

1. 万博跡地がキジの楽園に

1970年千里丘陵で開催された日本万国博覧会、その跡地が万博公園自然文化園として生まれ変わりました。当時は高度成長期、住宅地・工場敷地など開発需要が旺盛だった時期でもあり、樹林を中心とする公園として残された大英断に感謝するばかりです。しかも、植樹密度を外側から3段階

・密生林：常緑樹中心のこんもりとした林
・疎性林：落葉樹中心の明るい林
・散開林：芝生広場の所々に高木

とされたことで、生物多様性という言葉のなかった時代に、多様性のある樹林構成を計画されたことに時代の先取りを感じます。

植樹された当初、木が小さいため木々の間に草が生えていて、キジを中心とする草原を好む鳥の楽園でした。日本野鳥の会が万博公園で探鳥会を開始した1985年、園内いたるところにキジがいて、繁殖期にはヒナ連れを良く見ることができました。

キジは草原の鳥、餌探しは明るい草原、危険が迫ると草薮に隠れます。植樹されたばかりの万博公園は、木々の間に草原・草薮がありキジに適した環境だったと推定されます。キジが多かったことから、万博公園のシンボル鳥とされ、園内の樹木銘板にキジマークが入っています。

2. キジに代わってオオタカ

そのキジが万博公園で全く観察できなくなったのは1998年のこと、しかもキジだけでなく、モズ・ヒバリ・ホオジロなど草原を好む鳥も少なくなりました。

一方で林を好む鳥が増え、当初全く観察できなかったヤマガラが繁殖するようになり、アトリなどの冬鳥も多くなっています。更に、里山に棲む鳥の象徴ともいえるオオタカが繁殖（人工林では初記録）、2007年から4年連続で、5羽のヒナを育てています。

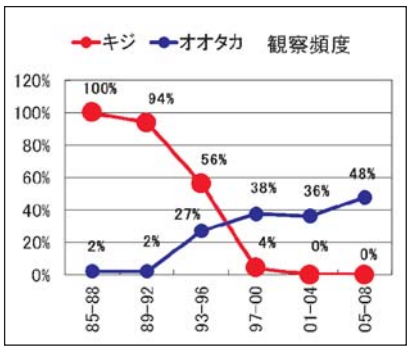
3. 万博公園の森の変化と生きもの

当初、キジがいなくなったのは、草を刈りすぎるためと思っていましたが、航空写真で見られるように、樹林の生長で木々の間の草が生えなくなったためと分かりました。

更に昆虫は草原を好む種が多いので、鳥以上に常緑樹生長の影響が出ています。現在、密生林内に人工ギャップを作るなどで、多様な生き物が住める「自立した森の再生」が推進されています。

万博の森をキジの棲める環境に戻すことは無理としても、ホオジロなど草原の鳥が戻ってくるようにしつつ、人工林では初記録のオオタカ繁殖が継続できる森を守っていきたいと思っています。

（平　軍二）



万博探鳥会での観察頻度推移
（1985～2008年）
（日本野鳥の会大阪）

万博公園の森航空写真（左1981年、右1992年）　独立行政法人日本万国博覧会記念機構提供

山田伊射奈岐神社本殿が大阪府指定有形文化財に指定されました

山田伊射奈岐神社本殿

吹田市山田東２丁目に所在する山田伊射奈岐神社は、平安時代中期に編纂された『延喜式』にも記載されている、古い歴史をもつ神社です。この地域にあった五つの村の産土神として古来より崇敬を集めてきました。吹田市指定有形文化財であった当社本殿が、平成23年１月14日に大阪府指定有形文化財に指定されました。

山田伊射奈岐神社の本社本殿は17世紀末頃（江戸時代中期）の建築と考えられ、大阪府下では希少な五間社流造です。五間社とは間口が五間の社殿のことです。この社殿は中央の柱間を広くとり、両端ほど柱間を狭めることで、建物の安定性を高め、中央を強調する工夫がなされています。本殿の奥行きは二間、内部は前後二列に分かれています。手前は「外陣」という礼拝空間で、奥の「内陣」は五間の各間に五柱の神が祀られています。

当本殿のもうひとつの大きな特色は、華麗な建築彫刻です。動植物の彫刻が入った蟇股のほか、力士、鬼面、麒麟などの彫刻が各所に配置されています。また、本殿は上質なケヤキ材を用い、美しい木目を活かした建築となっています。

（池田直子）

孔雀

梅に鶯

力士

麒麟

鯉

ケヤキの木目

元町遺跡の発掘調査

吹田市元町に所在する元町遺跡において、今年２月に発掘調査を実施しました。元町遺跡は、平成５（1993）年に発見された遺跡ですが、本格的な発掘調査は今回が初めてです。調査では、中世以前の柱穴とみられるピットや、近世の池跡と考えられる落ち込み跡が確認できました。落ち込み跡からは、古墳時代・平安時代・中世・近世の土器や陶磁器が多く出土しました。

（賀納章雄）

遺構検出状況

季節の風物詩　ーかき餅作り見学記ー

吹田市山田で現在も昔と変わらぬ方法でかき餅を作っている貴島さんのお宅を訪ねてきました。かつての吹田市域ではどの農家でもかき餅作りは盛んでした。

２月の寒の入りの最も冷え込む時期に乾燥させるとうまくできます。少々の塩にエビや、海苔、豆を入れたり、黒砂糖を入れて搗いた餅を麹蓋に入れ、２～３日乾燥させます。餅が固まると包丁で大割りといってカキモチの幅ぐらいに棒状に切り、さらに押し切り状のモチキリでカキモチの厚さに切っていきます。次は１か月間室内で組み立てたカキモチ棚の上に置いて徐々に乾燥させてできあがりです。

火鉢であぶって焼き、１年間のおやつにしました。間食にはカキモチを焼いてすぐに丼にいれ、塩をふり、白湯をかけると、トロッとなっておいしかったそうです。　（藤井裕之）

カキモチ作り

特別企画「むかしのくらしと学校」

博物館では12月から４月初旬まで、「むかしのくらしと学校」展を行っています。市内の小学校３年生が社会科学習の一環として見学に来ますが、この時、博物館ボランティアの体験などを交えた展示の解説を、子どもたちは目を輝かせながら聞いています。見学の際には「あかりのうつりかわり」や「2000年前のくらし（弥生のくらし）」や「むかしの米作り」についても、説明を聞いたり体験します。今年は小学校５年生向けに「米作の一年」の出前授業を３校で行いました。　（池田直子）

もみすりの体験

近つ飛鳥博物館で本市出土の墨書土器等が展示されました

大阪府立近つ飛鳥博物館で１月22日から３月13日まで「歴史発掘 おおさか－大阪府発掘調査最新情報－」が開催され、大阪府下16市、２町での最近の発掘調査で見つかった縄文時代から江戸時代末にかけての資料が展示されました。吹田市の資料では平成21（2009）年に市指定文化財に指定された垂水南遺跡出土墨書土器や吉志部神社本殿跡の調査写真が展示されました。

（増田真木）

大阪府立吹田高等学校との高博連携の協定を締結

博物館と大阪府立吹田高等学校との高博連携の協定に関する締結式が３月４日に行われました。同校では平成23年度から『こども未来専門コース』が設置され、博物館では高校生の博物館利用の形態、方法を学校とともに検討し、博物館利用の促進をめざしていきます。

（藤井裕之）

万博市民展　千里から上海へ　関連イベント

プレイベント

4月10日（日）午後2時～4時
「お花見コンサート」　紫金山グリーン合奏団
女声合唱団「コーラス・ビータ」
メイヒル男声合唱団

オープニングイベント

4月29日（金）午後1時30分～3時
「権六踊り　40年の時空を超えて」
権六踊り保存会

講演会等

4月30日（土）午後2時～3時30分
「上海万博の経営人類学」
国立民族学博物館教授　中牧弘允氏

5月15日（日）午後2時～3時30分
歴史講座「万博公園の考古学」
当館学芸員　高橋真希

5月22日（日）午後2時～3時30分
「大阪万博とは何だったのか
～“進歩”と“調和”の実相」
文化政策・まちづくり大学院教授　角橋徹也氏

5月29日（日）午後2時～3時30分
「現代中国事情」
中華人民共和国駐大阪総領事　鄭　祥林氏

6月4日（土）午後2時～3時
博物館トーク「万博コレクションを楽しもう」
万博コレクター　大林進氏

6月5日（日）午後2時～3時30分
「大阪万博の語り部　～アメリカ館大屋根との格闘」
太陽工業株式会社OB　薮野正年氏

6月11日（土）午後2時～4時
トークショー「博覧会たずねて30年
～1981ポートピアから2010上海万博まで」
博物館愛好家　二神敦氏・奥居武氏

6月12日（日）午後1時30分～3時30分
フォーラム「万博の森づくり40年
…整備から管理まで　キジからオオタカへ」
大阪芸術大学講師　中井和成氏
万博機構自立した森センター　千原　裕氏
吹田野鳥の会

6月18日（土）午前10時30分～12時
シンポジウム「未来の万博」
吹田市内公立高校生徒

6月19日（日）午後2時～3時30分
「景観と町づくり」　京都大学教授　川崎雅史氏

6月25日（土）午後2時～4時
「21世紀の万博～愛知・上海」
関西大学教授　岡田朋之氏
元日本館アテンダント　太和田真知子氏

6月26日（日）午後2時～3時30分
「万博ブルガリア館とヨーグルト」
マリア・ヨトヴァ氏

7月2日（土）午後2時～3時30分
「万博公園の自立した森づくり
…多様な生き物の棲む森をめざして」
京都大学大学院教授　森本幸裕氏

まち案内人といく「万博展おでかけイベント」

5月14日（土）「パビリオン跡地のプレート探し」
5月21日（土）「日本庭園見学」
5月28日（土）「万博自然文化園のエコツアー」
6月4日（土）「万博周辺の施設めぐり」
6月11日（土）「万博花の名所めぐり」
6月18日（土）「万博公園内の記念物・
記念樹めぐり」
＊午前9時30分～12時。要申し込み。問い合わせは浜屋敷（TEL4860-9731/FAX4860-9725）へ。

世界の国からこんにちは

5月1日（金）「北欧からこんにちは」
スカンジナビアの話とインネバンディ球技実技

5月3日（火）「オセアニアからこんにちは」
英語で遊ぼう

5月4日（水）「アメリカからこんにちは」
アメリカの手話で歌おう

5月5日（木）「カナダからこんにちは」
カナダの子どもの遊び

5月7日（土）「ウズベキスタンからこんにちは」
ヤンマーに就職を決めた訳

5月8日（日）「インドからこんにちは」
インドのお話、サリーの着付け、インド舞踊

5月14日（土）「ニューオリンズからこんにちは」
津波カトリーナからの復興

5月21日（土）「イギリスからこんにちは」
バグパイプの話と演奏

＊5月1日は午前10時30分から12時、
他は午後1時30分～3時30分。

むかしの中国から学ぶ　講師：高根秀人年氏

6月4日（土）「孔子と論語」
6月5日（日）「易占と易学」
6月11日（土）「陰陽相対」
6月12日（日）「五行（中国医学）」
6月18日（土）「英語でABC論語カルタ」
6月19日（日）「世界の占い・実践」先着20名
＊6月18日のみ午後1時30分～2時30分。
ほかは午前10時30分～12時。

**無料観覧日4月29日（オープニング）、
5月18日（国際博物館の日）**

ほかにもたくさんのイベントがあります。
予告なくイベントが変更・中止されることがあります。
詳しくはホームページをご覧ください。

●開館時間
午前9時30分～午後5時15分

http://www.suita.ed.jp/hak/

吹田市立博物館だより　第45号
平成23年（2011年）3月31日発行
吹田市立博物館
〒564-0001
吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06（6338）5500
FAX.06（6338）9886

この冊子は、3,000部作成し1部あたりの単価は49.4円です。